

## <夕礼拝（6日）の聖書から>

【生命は生命から生まれる】これは、先週の週報と同じ小見出しになります。“新しい革袋”の喩で、主イエスの言葉として何が起こったのか、結論を、また小見出しの形で書いてみると【新しい契約(主の贖い)は旧約聖書の神の救済の歴史からの出来事(成就)】であるということになるのです。

【放っておくと使えなくなる】先週の夕礼拝では、エレミヤ書13:1～11が開かれました。出来事はこうです。エレミヤに主の言葉がのぞみました。「あなたの帯をとり、ユーフラテスまで行き、岩の間に隠しなさい」です。これに対して、エレミヤは遠くまで行き、そのようにします。長い年付きの後、また主がエレミヤに、今度は「先のところまで行き、その帯を取り出せ(6節)」というものでした。エレミヤはそのようにしましたが、帯はボロボロになり使い物にならなかったというのです。大事だ大事だと思っていた、帯(身を引き締める大切なもの)も、しまっている間に使えなくなってしまったというわけです。よく分かる話です。いつからボロボロになったというjことではなく、徐々にそうなったのです。

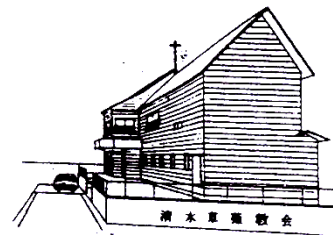
【このように】主は「このように(8節)」と語られます。何がこのようになるのでしょうか。偶像礼拝についてです。“知らぬ間に、徐々に徐々に、神から離れ、偶像礼拝を受け入れてしまった”ということです。いつからというのではなく、徐々にです。「このようにしてエルサレムの傲慢を砕く(9節)」と仰るのです。イスラエルの人達は皆、“神の民、契約の民”とっていました。しかし、そのことをどこかにしまいこんでしまっていました。“救い”という言葉も、言葉だけになってしまい、それがなんであるかという、毎日の確認から、エルサレムの指導者たちの心は離れていきました。

【金庫の中の聖書と十字架】このことは私たちの日常の、あるいは社会の変化に、どう対応したらいいのかということをお話しています。変化は、そして、悪しき変化は、非常に巧妙に、そして、知らぬ間に神から離そうという形でやります。“今日から”ということが分かれば、皆“ダメだ”といえるでしょう。十字架も聖書も、毎日、私たちのものと、し続けなければいけないのです。「聖書は知っている、またその大切さも、それによって救われたことも知っている」と答えることは答えるけれど、金庫や本棚の隅に、いちばん高い手の届かないところに、隠してあり、十字架の傍らで、ほこりをかぶっていることってないでしょうか。主は、こういわれます。“人が帯を腰にしっかり着けるように、わたしはイスラエルのすべての家とユダのすべての家をわたしの身にしっかりと着け、わたしの民とし、名声、栄誉、威光を示すものにしよう、と思った。しかし、彼らは聞き従わなかった(11節)”と。

【“この程度なら”の信仰】私たちは、特に日本やこの地域においては、圧倒的な少数者です。ですから、まぎれもなく弱いのです。強くあろうとすれば、無用ないさかいを引き起こしたり、相手にしてもらえないと、思いやすいのです。主イエスの喩には、エレミヤに語られた、“新しい契約を、しっかりと身につけて、日々新たにされる(コロサイ3:10)ことを忘れないように(これはキリスト者の完全という言葉でも示されます)”という御言葉が息づいているのです。

# 週報

2011年 2月 13日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

|         |   |          |
|---------|---|----------|
| ユース礼拝   | 毎日曜日  | 午前 9:00  |
| 礼拝式     | 毎日曜日  | 午前 10:30 |
|         | (聖餐式 第一日曜日)   |          |
| 夕礼拝式    | 毎日曜日  | 午後 7:00  |
| エステル公会  | 毎水曜日  | 午前 10:30 |
| 聖書研究祈禱会 | 毎水曜日  | 午後 7:00  |
| ホームページ  | <a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a> |          |

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042